

「病気」とともに生きる高齢透析患者の生活に関する研究

立命館大学応用人間科学研究科
対人援助学領域
発達・福祉臨床クラスター
松尾 潤子

日本の透析医療は、血液透析療法が主流であり、原因疾患としての糖尿病性腎症の増加と患者の高齢化が特徴といえる。

血液透析治療は、週に 3 回の通院と食事・水分管理を中心にしたセルフケアが重要で、透析患者はこれを一生続けなければならず、患者にとって大変負担の大きい治療である。そのため透析患者の高齢化には、これまで身体的問題、精神・心理的問題、社会的問題、倫理的問題など多くの問題が指摘されてきた。しかし、現実の彼らは、このような様々な問題に直面し、悩みながらも、日々この状況を生き抜いている。そこで本研究では、「病気」とともに生きる高齢透析患者の生活を「病気」との向き合いかたと、「病気」への取り組みという視点から明らかにすることを目的とした。

血液透析を導入して一年以上経過した 65 歳以上の患者 5 人に半構造化面接を行い、Cohen ら (2000) の『解釈学的現象学による看護研究』(Hermeneutic Phenomenological Research.) を参考に分析を行った。

分析の結果、「病気」とともに生きる高齢透析患者の生活は、以下の 7 つのカテゴリーと 18 のサブカテゴリーに分類された。

(1) 透析治療は、生命維持のために必要なもので、生活の一部である とサブカテゴリー<原因疾患の理解><透析治療の受容><透析治療中心の生活>、(2) 身体症状に常に悩まされている とサブカテゴリー<原因疾患による身体症状><透析治療による身体症状><合併症による身体症状>、(3) 自分の身体に関心をもち、自分なりのセルフケアを実施している とサブカテゴリー<透析治療に対するセルフケア><原因疾患・合併症に対するセルフケア><身体への関心>、(4) 透析治療を含めた私らしい「このまま」の生活を維持したいと考えている とサブカテゴリー<私らしい毎日の生活><私らしい生き方><他者の援助>、(5) 「死」よりも「寝たきり」になることに不安を感じている とサブカテゴリー<死への意識><寝たきりの不安>、(6) 家族・友人など他者の支えがある とサブカテゴリー<家族が心の支え><友人・知人・介助者との交流>、(7) 経済的問題を意識している とサブカテゴリー<通院費用の問題><社会保障の活用>である。

以上のように「病気」とともに生きる高齢透析患者の生活を 7 つのカテゴリーに着目して理解することは、医療者の患者に対する一方向的で画一的な援助を、より個々の生活に寄り添った質の高い援助へとつなげることができるのではないかと考える。本研究で明らかにされたカテゴリーの妥当性をさらに検証していくことが今後の課題である。